



修学旅行で民泊を利用した卒業生へのメッセージ

これからも民泊を通して
私たちの故郷の良さを発信していきたい。

南島原ひまわり村
楠田 耕三 村長



**全国から注目される
南島原市の民泊事業**

本市の民泊事業への取り組みは、全国的に見て早い方ではありませんが、ここ数年の急成長は全国的に注目を浴びており、視察も増え、あらゆる所で本市の事例が紹介されるなど、後進地域から先進地域になっていきます。

これからの展望

これまで急成長してきた事業ですが、これからは、受け入れの数だけでなく、長く安定的に事業展開できるよう、さらに受入態勢づくりに取り組み、観光協会を中心に、ひまわり村、個々の受入家庭と市が一体となって南島原市らしい事業を展開します。

充実した受入組織

本市の農林漁業体験民泊事業は、受入農林漁家への推進から誘客活動、修学旅行の下見対応や受け入れの調整など、全てを（一社）南島原ひまわり観光協会が行っています。豊富な人材と経験を有し、強く受入家庭とつながっています。また、これらの事業は、観光協会と市が一体となって取り組みを進めています。

受入者間の深いつながり

より良い民泊受け入れを行うために、受入農林漁家で組織された「南島原ひまわり村」があり、全ての受入家庭が加入しています。ひまわり村では、村長、副村長、班長を中心に、受入者間の情報交換などを行い、深い絆で結ばれています。ここが、本市民泊の強みです。



好調の理由

①人

本市の人情味あふれる暮らしと豊かな自然環境、そして何より受け入れを行う心温かい人が強みです。

②感動

農林漁業体験と宿泊がセットになっており、農林漁家の家族の皆さんと利用者が長い時間を一緒に過ごすことで、心と心の交流が深まり感動を得ることができます。

③本物

農林漁業の生産力の高い地域で民泊ができることから、本物の体験と暮らしを体験できます。

④体験

海・山・田畑があり農林漁業全ての体験を一つの地域で実施できます。

⑤安心・安全

安全対策や衛生面、受け入れを行う実践者の研修会や視察研修を実施するなど、観光客が安心して参加できる態勢づくりに努めています。

急成長／南島原市の農林漁業体験民泊

1万人突破！

本市では、地域の特徴を生かした地域振興・観光振興策として、農林漁業体験民泊事業に取り組んでいます。平成21年度に6軒の受入家庭からスタートしたこの事業も、現在、約150軒にまで拡大し、受入人数は初期の目標であった1万人を突破しました。事業の推進を始めた頃は、受け入れをしてくれる家庭があるだろうか？お客さんは来てくれるのだろうか？と不安でしたが、関係者の協力のおかげもあり3年目となる平成23年秋に、広島から初めて3

海外からも

平成25年度から始めた台湾からの受け入れも好調で、年間を通して定期的に受け入れしており、その他、韓国の大学生など海外から年間約1千人の観光客を受け入れています。最初は、「言葉が通じないから受け入れはちょっと」と言われる受入家庭もありましたが、その分、身振り手振り

校の修学旅行生を受け入れることができました。そして、平成26年度は、関東や関西を中心に42校9,841人の修学旅行生を受け入れるまでになりました。



祝！台湾ツアー受入1千人達成

でお互いが自分の思いを伝えようとすることで、より心と心の交流が深まり、次も受け入れたいという家庭も増えてきています。